

## 令和4年5月30日 定例記者会見

### 【質疑応答要旨】

- < 記者 > 小牧南小学校改築工事の増額について、これは解体工事でアスベストが追加で見つかったということか。5月にも、旧図書館の解体のときにアスベストが追加で見つかって1億円ほど費用を追加したが、調査した会社は同じか。旧図書館は業者が調査をして、あるとみなしたところ以外から見つかって増額になったが、今回の南小学校も同じか。また、現時点でアスベストの飛散は確認されていないか。
- < 市 > 調査会社は別の会社である。工事に入らないと分からないような場所もあり、国の基準を守りながら、安全に解体工事をしていくということが基本となる。見つかった分はしっかり防護し、アスベストが飛散しないよう安全に工事を進めることになるが、その時点で必要な増額については予算を追加していくしかない。現時点でアスベストの飛散は確認されていない。
- < 記者 > 市長の出处進退が注目されているが、市長は去年の6月議会にも3期12年でバトンタッチするのが理想的であるとか、最長でも3期12年、多選の弊害を今までいろいろ訴えてきたので、市長なりのけじめとして3期12年で終わるといった趣旨の発言をされている。実際、市長選まであと半年と迫ってきて、どのようにお考えか。
- < 市 > 現時点でも考えは全く変わっていない。この期が終わった次の期のことについては、自分としては何らかの決断をしたということではなく、昨年6月に答弁した内容のとおりである。状況を注視しながら適切な時期に判断をしたいと思っている。
- 3期12年が適切として多選リスク条例も提案してきており、その思いは変わっていないが、現実的にはそれだけで判断するわけではない。まずは今の任期を全うし、その後も小牧市政が私の思い描いた形で進んでいくように道筋をしっかりとつけていきたいと思っている。現時点ではあらゆる選択肢を考えながら、いずれかの時点で判断するということには変わりはない。

< 記者 > 児童館での一時預かりというのは、近隣自治体では珍しいのか。また、今回なぜ大城で実施するのか。

< 市 > 県内では、児童館で一時預かりをやっているということは、調査段階ではあるが非常に珍しい事案と考えている。大城児童館で実施する理由については、現在一時預かりを実施している子育て世代包括支援センターが市内の中心部にある施設で、東部在住の市民から「センターまでの往復に時間がかかるので、利用をためらうことがある」という声もあり、また大城児童館の指定管理のプロポーザルにおいて児童館での一時預かりについての提案があったことを採択した結果、今年度実施しようとするものである。